2024.1.31 第１５回霊的講話　慰めに満ちた神②

生徒の皆さん、おはようございます。今日は「慰めに満ちた神」の２回目です。

私たちは日々の生活の中で、時として様々な不安や心配事を覚えながら生きています。皆さんの中に、不安とか心配事が大好きな人はいますか？　おそらく、そんな人は一人もいないでしょう。誰もが不安や心配事のない、明るく安心できる生活を望んでいると思います。もちろん、将来に対する不安や心配があると、私たちは前もっていろいろな準備をしたり、対策を講じたりしますから、不安や心配も全く役に立たないわけではないのかもしれません。でも、強すぎる不安や絶え間のない心配は私たちの心を疲れさせ、徐々に正しい判断力も奪っていきます。このような強い不安や絶え間ない心配を抱え込むことを「思い煩う」とも言います。「煩う」とは精神的な苦しみや悩みを言いますが、これがひどくなると、もう一つの「わずらい」、身体の病気を表す「患い」になる場合もあります。

今日はまず、この「思い煩う」に関する聖書の箇所を一緒に読みたいと思います。皆さんの新約聖書の３６６ページを開いてください。新約聖書フィリピの信徒への手紙４章４節から７節までをお読みします。３６６ページの上の段３行目からですね。

「主（この「主」というのは神様のことです）において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。」

前回の霊的講話の中で、私は「校長はストレスも多くて大変だ」と言ってしまいました。でも、もちろん、感謝していることもたくさんあります。ミッションスクールである清心中学校・清心女子高等学校で働くことができること、特に素直で心優しい生徒の皆さんに出会えたことはいつも神様に感謝しています。また、このように皆さんに聖書の言葉を紹介できることもとても感謝しています。

それに、私は「校長はストレスが多い」なんて言いましたが、よく考えると、私はこの学校の校長になる前、ずっと前から思い煩うことの多い人間だったように思います。

例えば、私が３０歳代後半だったころの話です。当時、私は小学校・中学校そして高校の先生方が研修を受けるための岡山県の施設で働いていました。その施設にはいろいろな役割の職員がいましたが、私はその中でも、理科の生物分野の実験や授業に関する研修講座を担当していました。ある年、私はメダカを使った実験、特にメダカの産卵や受精、あるいは卵の中で赤ちゃんメダカが成長してくる「発生」という現象を観察する研修講座を計画しました。皆さんも小学校時代には教室でメダカを飼育して、朝、登校すると、メスのメダカのお

腹に卵がぶら下がっているのを見たことがあるかもしれません。でも、夜明け頃に、メダカのオスがメスに出会って求愛のダンスをする様子や、オスが大きなひれでメスを包み込んで産卵を促し、受精させるという瞬間を見た人はあまりいないでしょう。この産卵の様子の観察を含め、内容豊富な研修講座を私は計画しました。そして、２～３カ月も前から、メダカ専用の養魚場から若いメダカを購入して準備しました。メダカ達は順調に成長して卵を産み始め、準備のための予備実験も順調でした。私は「いい研修講座ができる。参加した先生方にも喜んでもらえるぞ」と思っていました。ところが、研修講座が間近になったころ、用意していたメダカ達が次第に卵を産まなくなったのです。メダカが卵を産まなくなったら、観察も実験も成り立ちません。後から考えれば、予備実験のためにどんどん卵を産ませたのですから、やがて用意したメスのお腹は空っぽになって卵を産まなくなるのは当たり前だったのです。でもそれに気付いたときは、時すでに遅しです。新しいメダカを購入して育てる時間はもうありません。私は焦りました。「研修講座のその日その時に岡山県内から理科の先生方が集まって来るのに、お目当ての実験や観察ができなかったらどうしよう？」その時から、私は強い思い煩いに囚われるようになりました。他の人から見れば、実験観察が予定通りにいかなくても、誰かが不幸になるわけでも傷つくわけでもないだろうに、と言えるのですが、思い煩いに囚われている当の本人の心の辛さは他の人には分からないものです。その頃の私は夜寝ていても熟睡できず、明け方４時ごろには起き上がって布団の上に座り、「研修講座、どうしよう…」と頭を抱える日が何日も続きました。

　そのような時、私は先ほどの聖書の箇所を思い出し、何度も読み返しました。まず「感謝を込めて」と書いてありますから、本当はそんな気分ではなかったのですが、これまでの神様の助けや導きを感謝しました。次に「求めているものを神に打ち明けなさい」とありますから、正直に「神様、研修講座を何とかして下さい。できれば、メダカを祝福して、もう一度卵をたくさん産ませてください」と祈りました。ところが、何度か祈る内に、心の中にある言葉が繰り返し浮かんできたのです。それは「続けなさい」という言葉でした。「思い悩んだり怯えたりしなくてもよい。落ち着いて研修講座の準備を続けなさい」ということのようです。私はノロノロと立ち上がり、準備を再開しました。そして、今の問題点やこれからすべきこと・できることを紙に書き出してみました。私たちが思い煩っているとき、様々な考えや不安、問題がゴチャゴチャになって頭の中で渦巻いています。でも、紙に書き出すことによって、私たちは問題点を客観的に見つめ直し、考えを整理することができるのです。やがて私は落ち着きを少し取り戻し、残っている元気なメダカを使って最低限の卵を確保するようにしました。また、メダカ以外で、研究者が発生の実験でよく使っている熱帯魚があることを知り、その熱帯魚を急いで購入して準備しました。その熱帯魚は簡単に産卵し、観

察もしやすいのです。これによって、私はなんとか研修講座を乗り切ることができたのです。

祈るとき、私は、今のメダカが奇跡的に若返って再び産卵を始めるという、言うなれば奇蹟のような事を望んでいました。でも、神様の御心は違いました。神様の御心は「恐れないで、落ち着いて考えればきちんと対応できる」ことを私に教えることだった様です。神様は私たちの祈りに応えてくださいます。でも、どのような答えを私たちに与えられるかは、神様が御自分の知恵と主権によって決められるのだということも私は学びました。皆さんはどのように思われますか？

さて、今日で１月も終わります。このひと月、私たちは、元日に起きた能登半島地震による被災者の方々のことを覚えてきました。現地の復興がなかなか進まない中で、被災者の皆さんも将来に対する不安、そして思い煩いに苦しんでおられることでしょう。今日は「災害の時の祈り」を共に祈りましょう。賛歌の１６ページを開いて下さい。

〔災害の時の祈り〕

この祈りの終わりには「わたしたちも努力します。このこころざしを祝福してください」とありますね。来週一週間、マリア会の生徒の皆さんが能登半島地震の被災地への募金活動を行うとのことです。募金の紹介をよく聞いて、そのこころざしのある人は、ぜひ実行に移して下さい。以前に紹介した聖書の言葉、「神様は喜んで与える人を愛して下さるのです」という言葉も思い出したいですね。

では、皆さん、これで、今日の霊的講話を終わります。ありがとうございました。